中高一貫教育実践研究報告書

平成１２年１月

中高一貫教育実践研究報告書

長野県中高一貫教育実践研究協力校

大町市立仁科台中学校

長野県大町高等学校

目　　次

1 研究主題 ---------- [1]

2 実践研究協力校 ---------- [1]

3 組織 ---------- [1]

4 地域の特色 ---------- [1]

5 学校の特色及び生徒の実態 ---------- [1]

6 研究概要 ---------- [2]

（1） 授業公開及び教科別研究会 ---------- [2]

（2） 授業・特別活動における連携 ---------- [3]

① 授業交換（出前授業） ---------- [3]

② 部活・クラブ活動 ---------- [4]

③ 生徒会活動等 ---------- [5]

（3） 県外中高一貫教育先進校の視察 ---------- [6]

① 暁星中高等学校・吉祥女子高等学校 ---------- [6]

② 東京学芸大付属中高等学校・筑波大付属駒場中高等学校 --- [7]

③ 灘中高等学校 ---------- [8]

④ 岐阜大学教育学部附属小・中学校及び奈良女子大学文学部附属中・高等学校 [9]

⑤ 考察 ---------- [9]

（4） 中高一貫教育実践研究協力校の視察 ---------- [9]

（5） ６年間を見通した教育課程（授業進度） ---------- [10]

（6） 中高の接続の在り方 ---------- [11]

（7） 研修会等への参加 ---------- [11]

（8） 研究委員会の開催 ---------- [12]

7 考察 ---------- [13]

（1） 趣旨を生かした教育活動の改善について ---------- [13]

（2） 設置形態について ---------- [14]

（3） 今後の課題と対応について ---------- [14]

1　研究主題　「都市部における中高一貫教育について」

2　実践研究協力校　大町市立仁科台中学校　　長野県大町高等学校

3　組織

委員長　　竹内　善一（大町高等学校長）
副委員長　　小林　健孜（仁科台中学校長）
研究主任　　小原　隆男（大町高等学校、数学、２学年、教務主任）
研究副主任　矢口　　修（仁科台中学校、理科、１学年、研究主任）

研究委員（中学校）
鎌倉弘行（国語、１学年、研究副主任、学活主任）
浅井昌道（保健体育、３学年、研究副主任、生徒指導主事）
大西孝一（美術、３学年、研究副主任、清掃指導主任）
清水祥夫（　教　頭　）

研究委員（高等学校）
松田　　大（理科、３学年、生徒指導主任、教育課程委員長）
小宮山健司（芸術（書道）、３学年、生徒会係主任）
小山　和男（英語、２学年、学力問題研究委員会主任）
関　　哲夫（　教　頭　）

4　地域の特色

大北地区は日本海と長野県とを結ぶ千国街道の宿場町として発展し、また北アルプスの山並みを眼前に望み、夏は登山基地、避暑地として、冬は多くのスキー場にレジャー客が殺到する一大観光地域である。特に大町市は立山黒部アルペンルートの玄関口として、多くの登山者、観光客が集まる岳都となっている。人口は約３万余人でかつてはダム建設、電力を利用してのアルミ精錬、繊維産業などが盛んであったが、海外生産の増加に伴い、現在では規模を縮小して操業している。そのため人口はほぼ横這いで南安曇や松本方面に仕事に出ている者も少なくない。 就学人口はこの十年間、全体として減少を続けており、その対応が迫られている。

また学力面では多くの課題を抱えているが、各学校では学力の向上に向けて様々な試みや努力がなされている。一方、この地区の子供たちは総じて純朴かつ素直で、自然に恵まれた環境の中で豊かな心を育みながら成長しており、それを支える住民もこの地区の将来を担う子供たちへの期待感が強く、教育については熱心な地区である。

5　学校の特色及び生徒の実態

（1）大町市立仁科台中学校

昭和４０年、大町第二・第三中学校の統合中学として発足し、現在３３年目を迎え「自主・友愛・根性」を学校目標として勉学に励み、今日まで大北地域の中心校として、学習・スポーツ・音楽面等に多大な成果を残し、地域にも影響を与えている。また、市街地から農村部にまたがる広範な学区を抱えているが、ここに学ぶ生徒たちは、素直で、活動的であり、友と力を合わせて、よりよい学校を築いていこうとする気概を持って生活している。

（2）長野県大町高等学校

明治３４年創立以来、１００周年を目前に控えた伝統校である。「質実剛健」を校風とする伝統は今も生き続け、『こんちわ（魂知和）』の挨拶の中に込められた精神を学校生活に活かしながら、生徒教師共に心を開いて勉学に励んでいる。また在学生のほとんどが進学を希望しており、生徒減という厳しい状況の中で大北地域の中心的な進学校としてその役割を果たすべく努力している。一方、クラスマッチ、合唱コンクール、文化祭、強歩大会、全校登山等、学校行事や生徒会、クラブ活動も非常に盛んで、とりわけ全校登山は今年度５２回目を数える学校行事として全国に誇り得る本校の一大イベントとなっている。またクラブ活動においては、運動系、文科系クラブの活躍も全国レベルである。そうした環境の中で生徒は文武両道をめざし、のびのびとした学校生活を送っている。

6　研究概要

（1）　授業公開及び教科別研究会

第１回：	６／２	（大町高校）	互いの教科内容の理解と授業展開上の課題や改善点等について
第２回：	６／２９	（仁科台中学）	指導の系統性の洗い出し及び授業交換について
第３回：	９／７	（大町高校）	特別カリキュラム（６年間を見通した教育課程）の検討
第４回：	１０／２０	（仁科台中学）	特別カリキュラムのまとめと教科会のまとめ

授業公開及び教科別研究会の持ち方

・終日自由参観 ── 都合の良い時間帯（各自の空き時間）に担当教科に限らず参観
・教科別研究会 ── 放課後、各教科別に開催

①　授業公開の成果と課題

〔高校側〕

・能力面で幅のある生徒の実態と中学の苦労がわかった。
・中学の授業を参観して自分の授業を見返すきっかけとなった。
・中学での指導内容、履修内容がつかめた。

〔中学側〕

・中学の指導すべき内容の位置づけや役割が明確になった。
・高校生の授業への集中した態度に学んだ。
・高校での授業の流れを知っておくことは、中学での指導に生かせる。

※〔課題と今後に向けて〕

・空き時間を使っての参観であるので、自分の教科の参観ができないときがある。
・中高で、日課に違いがあるので、１時間を通しての参観が難しい。
・実践研究協力校としての本年度ではあるが、今後も継続していく方向で考えていきたい。なお、年１回でなく、本年のように数回はとりたい。

②　教科別研究会の成果と課題

・普通は、このような機会はないので、貴重な場となった。
・教科のもつ特性等、中高を通して考えることができた。
・カリキュラムの検討を通して、指導の重複する部分や指導が浅くなっている部分が見えてきた。教科によっては、実技研修を取り入れたところもある。
・互いに意志の疎通がはかれてよかった。
・少人数の教科は、他教科との合同開催を考えていきたい。
・中高一貫という観点から離れて考えても良いことである。

（２）　授業・特別活動における連携

①　授業交換（出前授業）――― 別紙資料 No.-３参照（ＰＴＡ新聞から）

９月２２日	中学３年	選択国語（書道）	指導者	小宮山健司（高校）
１０月　５日	高校３年	音楽選択		中村　雅夫（中学）
１０月２１日	中学３年	体育（サッカー）		小林　敏彦（高校）
１０月２６日	中学２年	体育（バレーボール）		山岸　哲也（高校）
１０月２７日	高校３年	体育選択（バドミントン）		村川　和洋（中学）
１０月２７日	高校１年	体育（ソフトボール）		友野　修一（中学）
１０月２９日	中学１年	体育（剣道）		小林　武郎（高校）
１１月　２日	中学３年	保健		倉坪　崇之（高校）
１２月　９日	高校２年	選択日本史		三ツ井　仁（中学）
１２月　９日	高校２年	選択日本史＋地理		三ツ井　仁（中学）
１月２４日	高校１年	数学Ⅰ・Ａ		永　田　治（中学）
２月１０日	高校２年	国語		海川あゆ美（中学）
２月１０日	中学１年	音楽		水内　謙一（高校）
３月　１日	中学１年	英語		ｱﾝﾄﾆｰ・ｷﾞﾌﾞﾘﾝ(高校)
３月　２日	〃			〃
３月　３日	〃			〃

○選択国語（中３）書道から

高校におられる専門の書道教諭の指導及び授業設備の整った専門の教室。
中学の生徒が高校へ出向いて指導を受けた。
高校の書道教諭を中学の担当教諭が補助する形での指導。
生徒の反応
・先生の字がうまくて感動した。
・何回も丁寧に教えてくださった。
・きれいで広い専用の教室がうらやましい。

○音楽選択（高３）音楽から

生徒の反応
・ものすごく楽しかった。「これぞ合唱！」「これぞ歌！」って感じ。
・アメリカ音楽というものを改めておもしろく感じさせられ、良い授業だったと思います。
・ますます合唱が好きになりました。みんなでのって歌えることができて、１時間があっという間に過ぎてしまいました。
・声がひっぱられて出てくるような気持ちになる。みんな楽しそうに歌っていたし、合唱っていいなあと思いました。
・音楽を楽しむ伴奏ができることをうれしく思います。今日の授業は忘れることができないでしょう。
・また歌を習いに仁中（仁科台中）に行きます。よろしくお願いします。

〔成果と課題〕
・生徒も教師も緊張感を持って授業にかかわっている。大変有意義である。
・それぞれの教師の専門性が生かせる場となっている。
・一貫教育ということだけでなく、中高連携という面でも、今後に生かしていきたい活動である。

②部活・クラブ活動

いままでも部によっては、交流の場を持ってきていた。今回は、中高一斉に部活・クラブ活動の交流日を設けて実施した。 ――― 別紙資料 No. 4－1,2 参照（実施計画）

実施日	
	１０月　５日
	１０月１２日
	１０月２６日
	１０月３０日
	１１月　９日
	１１月１６日
	１１月２０日

○交流を行った部活動・クラブ活動

男女バスケットボール	ソフトテニス
男女バレーボール	卓球
サッカー	吹奏楽
野球（硬式の体験）	合唱
陸上	

○体験入部（１１月２０日実施）

	演劇	ラグビー	将棋・囲碁	弓道	書道
参加人数（中学生）	７人	１人	２人	１５人	２人

・中学にはなく、高校にある部への体験入部を行いたいとの考えで実施。
・小学校時、演劇クラブを経験してきている生徒は、中学でもやりたいと願っているところがある。しかし、現在中学にはその部活はない。今回の交流を通して本格的な演劇を体験させていただき、貴重な体験をすることができた。

〔成果〕

・中学生にとっては、通常の部活よりレベルが高くなるので意欲のもてる活動になり、中学校としてはとても交流は有り難い活動である。
・部活への取り組む姿勢の違い、自主的な取り組み等、中学生は感心させられる場面が多く、高校生の姿や技能を何とか自分に取り込みたいとの願いの動機づけとなっている。
・自分たちのためにボール拾いまでしてくれる高校生の姿に感謝し、頑張ろうとの気持ちを深めることのできた生徒が多い。
・指導者の交流という点では、指導方法の研修の場になり、大変勉強になった。
・気持ちが引き締まった部活のよい経験となった。
・高校生は中学生に教えることで、プレーの基本を再確認することができた。
・高校生にとっては指導することの難しさと重要性を知ることができた。
・集団が大きくなることによる活力を実感することができた。
・中学生を交えての部活動に、新鮮さと楽しさを感じた。
・高校の部活動を中学生にＰＲするよい機会であった。

〔課題〕

・高校生にとっては、指導的な時間が多くなってしまう。
・中学と高校での大会日が異なり、大会前での交流は実施しにくい。
・日課の違いにより、活動時間にズレが出て、十分な時間の確保が難しい。
・学校の施設だけでは活動場所が狭く、試合形式での練習が取りにくい。
・中学にあって、高校にない部（ソフトボール）は交流が持てなかった。
・使う用具の違う（硬式と軟式）場合に、工夫が必要である。

③　生徒会活動等

６月　１日	中学校ゴミゼロ運動 ・高校では、清美部を中心として清掃時間を利用し、大町高校周辺のゴミ拾いを実施。 ・集まったゴミは、仁科台中の清美委員が回収、処理を行う。
６月３０日	中学校での生徒集会 ・大町高校生徒会役員が、同校の文化祭「白嶺祭」への参加を呼びかける。
７月　９日 ～１２日	大町高校、白嶺祭 ・公開討論会に中学生が参加 ・例年になく中学生の参加者が多かった。 ・両校の備品を有効に活用しあうことにより、内容の充実と活性化が得られた。
１０月１５日 ～１６日	仁科台中学　蓮華祭 ・音楽会では、高校生の特別出演が行われた。 高校３年生の選択音楽の生徒たちのステージ 大町高校合唱コンクール最優秀学級３年５組のステージ 全体合唱「大地讃頌」に高校生も加わる

○　その他

・大町高校吹奏楽部定期演奏会に仁科台中学校吹奏楽部が友情出演。
・大町高校で行っている漢字検定に合わせて、中学生の受験希望者の受験に便宜を図っていただく。
・それぞれのＰＴＡ新聞に相互記事が掲載された。

〔成果と課題〕

・中学校での音楽会において、ステージ発表してくれた高校３年生の歌声に生徒はもとより地域・父母のみなさんも感動を味わった。今後、高校の合唱コンクールに中学生参加の方向を探っていきたい。
・討論会・座談会に中高それぞれの生徒が参加することにより双方の考え方、感性を肌で感じ理解することができた。
・学校や地域及び中高それぞれの実態に応じて、各種類ごとに行事及びその内容を重点化し、行事間の関連や統合を図りたい。
・日常的に生徒会役員同士の交流の場をもち、生徒会合同行事の計画等の推進を図りたい。

（３）県外中高一貫教育先進校の視察

① 暁星中高等学校・吉祥女子中高等学校

暁星中高等学校（東京都千代田区）	吉祥女子中高等学校　（東京都武蔵野市）
○概　要 ・創立　１８８８年　私立男子校 ・中高同一敷地内に設置 ・生徒数 中学校（557名）高校（576名） ・学級編成 中学（35名／組）高校（48名／組） 中１～高３まで担任は持ち上げ １年毎にクラス替えあり ・授業単位時間　50 分 ・土曜日授業あり ・教員週持ち時間　15 ～ 16 時間 ○募集内容 ・中学入学時で募集 ・高校入学時では若干名 ・中学入試倍率　10 倍 ○クラブ活動・行事等 ・生徒会行事、学校行事は中高一緒 （ｻｯｶｰ部はｸﾗﾌﾞ活動も中高合同・ ｲﾝﾀｰﾊｲ ﾍﾞｽﾄ8） ○教育課程に関する特徴 ・第二外国語（フランス語）必修 ・宗教の授業あり ・高１の家庭科は理科に読替 ・中３の内容は中２で終わらせる。 ・中３～高１の接続部分が工夫必要 ・数学は旧教育課程に近い。 ・数学は手作りの教科書を使用 ・確率は高１でまとめて教える。 ・２次関数は中３でまとめて教える。 ・図形問題も積極的に生徒は取り組む。 ・高２で文系・理系に分かれる。 ・社会はまだスパイラル。 （一本化しないかという声もある） ・理科は単元別に中３から化学Ｉを学習 ○学習について ・上位 20 %はよく勉強している。 ・家庭学習時間は高１生で約２時間 ・塾へ通う生徒はあまりいない。 授業中心 ○学校生活 高校受験がないのでのびのびと学校生活を送っている。 ○主な進学先 東大、一橋大、東京外語大、北大、早稲田大、慶応大、青山学院大など ○その他 ・ゆったりとした進路指導が可能	○概　要 ・創立１９３８年　私立女子校 ・中高 同一敷地内に設置 ・生徒数 中学校（625名）高校（788名） ・学級編成 中学（40名／組）高校（45名／組） 中１～高３まで担任は持ち上げ １年毎にクラス替えあり ・授業単位時間　50分 ・土曜日授業あり ・教員週持ち時間　14 ～ 15 時間 ○募集内容 ・中学入学時で募集 ・高校入学時で１組分募集 ・中学入試倍率　２～３倍 ○クラブ活動・行事等 ・生徒会・クラブ活動は中高別 （中３で１部合同練習） ・文化祭は同じ日（芸術鑑賞は合同） ○教育課程に関する特徴 ・４年前より中高一貫の教育課程を導入 ・中３から高１の内容を取り入れる。 ・中学入学生のクラスと高校入学生のクラスは高１の時点では別々、高２から混じる。 ・高校入学生は最初は中学入学生より成績はよいが高１の途中で逆転する。 勉強に対する姿勢の違いあり。 ・理系は中学入学生の方が学力は高い。 基礎がしっかりしているのではないか。 ・社会はスパイラルでなく１本化 ・今年３月の主要大学への中学入学生と高校入学生の合格率を比較すると明らかに中学入学生の方がよい。 ○学習について ・家庭学習時間は高１生で平均１時間 ・塾へ通う生徒はあまりいない。 ○学校生活 高校受験がないのでのびのびと学校生活を送っている。 ○主な進学先 東大、東工大、筑波大、一橋大、慶応大、上智大、早稲田大、中央大、明治大、東京女子大など ○その他 ・ゆったりとした進路指導が可能 自己中心的にならないよう、自己と社会の関係について考えさせるところから始める。 ・ｶﾅﾀﾞ・中国の中学・高校との交流

② 東京学芸大学附属世田谷中学校・高等学校及び筑波大学附属中学校・高等学校

東京学芸大学附属世田谷中学校・高等学校	筑波大学附属中学校・高等学校
○中学校への入学について ・附属小学校児童の９割が進学 他の小学校からは、５５名程度 地域指定はしている ・学力検査（国社算理の４教科）の実施。 倍率は約１１倍 ○高校への接続について ・４つの附属中から２３４名とる 他の中学（全国区）からは８６名 ・附属中生徒は連絡進学の観点から内申を尊重する。学力検査は行う。 ・男女比を１：１とする。 ○教員の交流について ・給与体系が異なるので難しい。 ・１つの附属高校に４つの附属中学があり、交流は難しい。 ○一貫教育にかかわって ・世田谷小・世田谷中・附属高校の３校で、研究開発校の指定を受け、「小・中高の結節期における教育課程の研究」に着手し始めたところ ・学芸大学自体が抱えている問題がある。高等学校の教員養成課程を続けるわけにいかなくなった。	○中学校への入学について ・附属小学校児童の８割強が進学 他校からは７０名程度 ・１時間以内の通学時間が条件 ○高校への接続について ・３分の２が附属中 連絡入試を行っている ・保護者と共に生活しており、通学時間７０分程度が望ましい。 ・男女比を１：１とする。 ○教員の交流について ・交流しやすいように日課（時間帯）は同じにしてある。 ・中高一貫ということで職員交流を始めたわけではなく、新制の学校改編時より行ってきている。 ・多少、現在に合わせて交流部分を増やしてきている。（総合の時間等） ○一貫教育にかかわって ・国立の学校であり、学習指導要録に準拠しなければならない。 ・カリキュラム上での連携は行っていない。

◎ 両校の視察を通して

・男女の数を同数になるように募集する点が長野と異なる点である。そして、それぞれに附属枠を設けている。

・中学校側と高校側では、若干、選抜についての意見が異なる。中学は定員を削減してでも出来るだけ附属高へ。高校は、附属枠を削減したい。

・途中から入学してくる生徒もおり、特別カリキュラムがつくりづらい。

③ 灘中高等学校

灘中高等学校	
○ 概要 ・ 創立　昭和２年　私立男子校 ・ 中高同一敷地内に設置 ・ 生徒数　中学校（５００名） 高等学校（６４７名） ・ 学級編成 中学校（５５名／組） 高等学校（５５名／組） 中１～高３まで担任は持ち上げ （１年毎にクラス替えあり） ・ 授業単位時間　５０分 ・ 土曜日毎週授業あり ・ 教員週持ち時間　15～16時間 ○ 募集内容 ・ 中学入学時で募集 ・ 高校入学時で１組分募集 ・ 中学入試倍率　３倍 高校入試倍率 2.6倍 ・ クラブ活動・行事等 生徒会行事・学校行事は中高一緒 （運動部の活動は２年の秋新人戦で終了） ○ 教育課程に関する特徴 ・ 高２の秋までに高３までの内容をすべて終了させる。 ・ 高１で世界史・日本史・地理を各１単位、物理・化学・生物・地学を各１単位履修させる。 ・ 理系進学者が多い。（医学部進学者が多いことによる。） ・ 高校入学生は、中学入学生より最初は成績がよいが最終的には中学入学生の方が高い進学実績を上げている。『基礎体力の違い』（教務主任談）	○ 学習について ・ 全般的に生徒は良く勉強している。 ・ 塾に通っている生徒が多い。 ・ 読書量の多い生徒がいる。 ○ 学校生活 ・ ＯＢを中心に、下宿施設を斡旋・提供してくれるので全国から生徒を募集することができる。 ・非常に個性が強い生徒が多いが、そのような生徒は許容範囲が広いので人間関係で問題となることはない。 ○ 主な進学先（平成１１年度現・浪合計） 東大　１１０名　京都大　３９名 大阪大　１９名　神戸大　６名 早大　２２名　慶大　３７名 東京医歯大　３名　防衛医大１０名

④　岐阜大学教育学部附属小・中学校及び奈良女子大学文学部附属中・高等学校

岐阜大学教育学部附属小・中学校	奈良女子大学文学部附属中・高等学校
○概要 ・昭和２９年開校 ・現在、定員１６０名の４学級編成。 ４０名強が他の小学校より抽選入学してくる。（応募者は１８０名を越える。） ・・・能力的な制限を加えない。 ・募集は、岐阜学区内で自宅からの通学を条件としている。 ○教育目標および実践研究について ・独歩、信愛、協働を教育目標とし、小中の異年齢集団による奉仕活動にひたむきに取り組むよう指導している。 ・小中一貫教育により、確かな学力をもち自らの生き方を創り出す力を育てる教育課程の開発を研究テーマに取り組んでいる。 ・総合的な学習（環境、福祉、情報、国際理解等）では学び方を明らかにして、小１～中３まで系統的な学習内容の充実を図る。 ・文部省の教育課程の研究開発を行っているので、学習指導要領に準拠しない教育課程としている。 ○中高一貫として参考になる点 ・系統的な学習を組む上で、２－２－２等段階的な深まりを考えた学習の展開ができるのではないか。 ・異年齢集団での諸活動を取り入れていけるのではないか。 ・職員の相互乗り入れ（出前授業の発展）として考えていけそうである。	○概要 ・２０００年４月から完全中高一貫教育のため、６年制をとる。 ・１学年約１２０名（男約６０名、女約６０名）本学附属小学校からの合格者を含む。１次検査は、国語と算数。１次合格者に対し抽選を行い、２次検査受検資格者を決定。２次検査は、社会、理科、音楽、図画工作、体育、家庭についての学力検査（実技を含む教科もあり） ・通学指定あり。保護者のもとから公共交通機関を利用して１時間以内。 ・附属中学校の卒業生が、そのまま附属高等学校に進学する。 ○教育実践について ・中学校および高等学校における教育の連携を深める教育課程の研究開発。 ・２－２－２制のあり方、総合学科「奈良学」「環境学」の設置および多様な選択履修制において研究の成果があがっている。 ・上記の成果の上に、「世界学」「情報学」の研究に取り組んでいる。 ○中高一貫として参考になる点 ・小学校からの選抜方法については、一考しなければならないように思う。 ・６年間を見通した総合学科の取り組みは、「総合的な学習の時間」が設けられる今日、参考となる学習内容である。 ・完全な一貫校ならではの教育課程の編成である。

⑤ 考察

・それぞれの一貫校はいわゆる受験教育を行っていないが、全国有数の進学実績を上げている。その主な原因は中学１年次より学習内容を先取りする教育課程にある。
・中等教育学校型（新設型）であるため、教育課程上の特例を生かし、特に外国語において大幅な時間数の上乗せを行い、学力向上につなげている。
・クラブ活動を中高合同で練習することにより、大きな成果を上げている。
（暁星中高等学校　サッカー　全国ベスト８）
・高校入試にとらわれることなく、継続して生徒に進路を考えさせることができ、本来の意味での進路指導が可能となる。
・担任がクラスを持ち上げることにより、生徒を一貫して把握でき、学習指導・生徒指導面で個性を生かした指導ができる。
・精神的ゆとりがもたらす結果からか、ゆったりとした雰囲気の中で、生徒も教師も生き生きと活動していた。

（４）　中高一貫教育実践研究協力校の視察
京都府立西乙訓高等学校　　（平成１２年２月７日訪問）
他県の先進校（三重県飯南地区、山口県下関地区、栃木県小山地区、神奈川県相模原地区、香川県高松地区、高知県嶺北地区、秋田県秋田地区）視察を中心に研究を進めている様子の説明を受けた。
連携型で実施することを前提に研究中。

（5） 6年を見通した教育課程（授業進度）

① 教育課程作成の基準

・「学力向上」という視点から作成する。

・中学の教育課程を作成するに当たっては、大町高校に入学しうる学力を持つ生徒を想定する。

・高校入試がないものとして作成する。

・単位数は各教科が必要と思われる単位数で考える。

② 教育課程表（別紙資料 No. - 1 -1,2）

③ 各教科の作成上のポイント

・ 国語･･･中学で古典の基礎を学習することができるよう、中３で国語Ｉを扱うことにした。

・ 社会・地歴公民･･･地理歴史の各分野を６年間通じて一本化し系統的に学べるようにした。

・ 数学･･･中１で現行より１単位増やし、中１の「正負の数」「文字式」と中２の「式の計算」を統合し計算力の向上と定着を図った。高１の確率は中３で重修部分を整理統合して学習する。高校の教育課程は各分野を系統的に整理した内容にした。

・ 理科･･･中学と高校の各分野を系統的に整理し合理的で学習しやすい内容に編成し直した。（中学では実習・実験を中心に理論を広く浅く扱い、高校できちんとした理論付けを行う。）

・ 英語･･･中学での英文法の必要性を考慮して中学での単位増を考えた。

・ 保健体育･･･（体育）中学段階で球技種目（バレー、バスケット、サッカー、ソフトボール）を経験させ、高校での種目別選択制につなげていくことを考えた。

（保健）中学・高校の重修部分を整理し、高校の２年次に保健を体育にすることを検討した。

・ 芸術･･･高校で選択制となることを踏まえて、ジャンルに系統性を持たせた。

・ 家庭･･･保育や福祉など体験的な学習については系統性を重視していきたい。

④ 考察

・重修する部分を整理し、学習内容を系統立てて配置することにより、それぞれの教科をより深く、高度に学ぶ仕組みを整えることができる。

・高校入試がなくなることから高校の内容を中学でも扱うことが可能となる。その結果、中学だけでなく高校の学習においても、「考えさせる授業」や「演習」の時間を適時配置することができる。

・継続性・習慣性が必要な英語・数学に多くの時間を配当する等、教育課程を弾力的に運用することで、学力向上を図ることができる。

・上記３点の考察内容については連携型では不可能である。

（6） 中高の接続の在り方

都市部における中高一貫教育の接続方法については多くのパターンが考えられ、研究委員会で原案を作成した上で、拡大研究委員会を開催して検討した。

中高一貫教育拡大研究委員会
日時　　８月３０日（月）
場所　　仁科台中学校
参加者　大町市教育委員長、大町市教育長、北安小中学校長会長
　　大町第一中学校長、実践研究協力校委員
計１４名
協議内容
　　中高の接続・教育課程について

拡大研究委員会では、２０通りのパターンについて検討されたが、その後連携型においては
- 小学校からの接続は、原則として就学指定。
- 中学の中に中高一貫の特別クラスを設けることはできない。
- 中学において、中高一貫に係わる特別カリキュラムでの授業はできない。

等の原則が明らかになり、更に委員会で別表（資料NO ２）の接続案を検討した。
その結果、具体的設置について本研究委員会としては、別表のとおり各論を併記するにとどめた。

（7）研修会等への参加

①「中高一貫教育推進フォーラム」（ 7月 21 日・22 日　主催：文部省・都教委）

・参加者　大町高等学校長　竹内　善一

・内容　事例発表　群馬県教育委員会　岡山市立岡山後楽園中学校・高等学校
　　東京都教育庁
　基調講演　「中高一貫教育の可能性－その意義と課題－」
　　講師：名古屋大学教育学部教授　安彦忠彦
　パネルディスカッション　「中高一貫教育の推進－その役割と可能性－」

②「中高一貫教育講演会」（8 月 27 日　主催：犀峡中学・高等学校中高一貫教育研究会）

・参加者　仁科台中学校　矢口　修（研究副主任）
　　大町高等学校　関　哲夫（教頭）　小原　隆男（研究主任）
・内容　講演「連携型中高一貫教育校について」（三重県飯南地域の例）
　　講師：竹林　敏夫（飯南町立飯南中学校長）
　　荒井　順治（三重県立飯南高等学校教頭）
　　宇田　克己（　　〃　　）
　懇談会（質疑・応答）

（８）研究委員会の開催

平成１１年４月２０日　第１回中高一貫教育研究委員会（県教委参加）
・研究委員会の組織作り・研究課題の検討・研究計画立案　　等

平成１１年５月１４日　第２回中高一貫教育研究委員会
・大町高での公開授業および教科別研究会の持ち方
・部活（クラブ）、生徒会交流について

平成１１年６月１７日　第３回中高一貫教育研究委員会
・６／２の公開授業、教科別研究会の反省等
・６／２９の公開授業、教科別研究会の持ち方
・部活（クラブ）、生徒会交流について

平成１１年７月２３日　第４回中高一貫教育研究委員会
・６／２９の公開授業、教科別研究会のまとめと２学期の研究の方向
・１学期の各交流のまとめ（生徒会活動・部活動）
・県外視察の報告

平成１１年８月３０日　大町地区中高一貫教育研究委員会と関係者との合同会議
第５回中高一貫教育研究委員会
・大町地区中高一貫教育研究委員会の計画と概要
・研究の経過報告
・中高一貫教育の接続について
・中高一貫カリキュラムについて

平成１１年１０月８日　第６回中高一貫教育研究委員会
・第３回教科別研究会のまとめ（教科カリキュラムの作成状況・出前授業）
・県研究会議の報告
・県外視察の報告
・第４回の教科別研究会について

平成１１年１２月２４日　第７回中高一貫教育研究委員会
・中高一貫教育実践研究報告書の検討

平成１２年３月１日　第８回中高一貫教育研究委員会
・中高一貫教育研究報告書最終案の検討

研究委員会を開催するに当たり、随時、中学と高校の教頭及び責任者間で準備のための会合や連絡をとりながら推進してきた。

7 考察

（1） 趣旨を生かした教育活動の改善について

① 『ゆとり』を生かす
（高校入試をなくすことにより生まれる時間的・精神的なゆとりを生かす）

・観察・実験・調査・見学・フィールドワーク・創作等の体験学習を取り入れることにより、積極的に学ぶ知的好奇心や探求心を醸成することができる。

・課題研究・グループ別研究等、課題解決型学習を実施することにより、主体性・創造力などを育成することができる。

・発表・討論等、多様な形態を取り入れた学習を導入することにより、思考力や表現力を錬成することができる。

・高校入試対策に費やしていた時間、高校入学当初に行う中学の復習等を削減することにより生まれる時間を利用することにより大幅な学習内容の先取りが可能となり、学力向上につなげることができる。

② 『継続』を生かす
（６年間を通して指導できることにより生まれる継続性を生かす）

・理科・社会における重複をなくす等、計画的・系統的な教育課程の編成ができ、合理的かつ継続的な学習指導が可能となる。

・小学校卒業直後からの生徒を一貫して指導することにより、計画的・系統的な生徒指導・進路指導が可能となる。

・生徒を継続的に把握したうえでの道徳教育・健康教育が可能になり、徳育・体育面を含めた全人教育の実現に近づけることが可能となる。

③ 『交わり』を生かす
（中等部の生徒と高等部の生徒が交流して活動する交わりを生かす）

・学校行事・生徒会活動・部活動等を幅広い異年齢集団が共同して行うことにより、リーダーシップや協調性の育成をはじめとする社会性を養うことができる。

・地域教材（環境・福祉・伝統行事）の活用や、ボランティア活動等の地域との連携を深めることにより、地域社会との交流の場が拡大され、地域から愛され育てられる学校作りに役立てることができる。

（2） 設置形態について

① 新設型・併設型

・教育課程編成上大幅な特例が認められていることから、重複を解消した系統的な教育課程が編成でき、学力向上をはじめ中高一貫教育の趣旨が 最大限生かされる。

・中等部・高等部が同一設置者であることから、人事交流を含めた指導の連携が容易である。

・中等部・高等部が同一敷地内にあれば双方の生徒の交流活動や施設を共用することが容易となる。

・都市部に設置することにより広範囲からの入学が可能となり、教育の機会均等・選択的導入の趣旨が生かされる。

・新設や同一設置者への移管が必要となり、設置が難しい。

② 連携型

・教育課程編成上認められている特例が一部のみであり、中高一貫教育の趣旨や特色が出しにくい。

・中学・高校とも別校舎で設置者が異なるため、十分な連携が困難である。

・小学校からの入学が就学指定された中学校へ限定され、教育の機会均等面での不平等が生じる。

・設置は容易である。

（3） 今後の課題と対応について

① 小学校卒業段階での進路指導の困難性が危惧されるため、小学校の進路指導の充実を図ると共に説明会・体験入学等を実施することにより、中高一貫（校）の趣旨の周知徹底を図る。

② 安易な志願を避けるため、調査書、面接、作文、実技試験等の多様な選抜方法による見極めを図る。

③ 受験競争の低年齢化を防ぐため、学力検査を課さないこと等、受験準備教育を必要としない方途で対応を図る。

④ 中高双方の指導を可能とするため、研修の充実等により、教職員の資質向上を図る。

⑤ 長期間同一メンバーであることによる学習環境になじまない生徒の出現を防ぐため、クラス替え・相談体制等の充実を図る。

⑥ 在学期間の長期化による中だるみ傾向については、授業進度・指導方法の工夫を図る。

資料No.-1-1

中高一貫カリキュラム（進度表）

仁科台中学校・大町高等学校

	国語		社会／地歴・公民		数学		理科		英語	
	時数	内容	時数	内容	時数	内容	時数	内容	時数	内容
中1	5	中１教科書 2.5 中２教科書 1.5 百人一首、口語文法 1.0	4	中学教科書　地理 （世界の諸地域）	4	中１教科書 中２教科書 ・式の計算 ・連立方程式	3	[物理分野] 光と音の世界，色々な力の世界，熱と物質の世界 波形，混合物，比熱→高校へ [化学分野] 水溶液と気体，熱と物質の世界 高校→化学変化と原子・分子の一部，燃焼・化合・分解 [生物分野] 外にでてみよう，植物の生活と体の仕組み，植物の仲間 [地学分野] 身近な天体，星や太陽の動きと地球の運動，太陽系	6	中１教科書 4 英会話 2
中2	4	中２教科書 1.5 中３教科書 1.5 古文・漢文・口語文法 1.0	4	高校教科書 世界史Ｂ （市民革命まで）	4	中２教科書（残り） ※連立不等式 中３教科書 ・式の計算 ・平方根	3	[物理分野] 電流の流れ、電流の働き コイル、モーター、電流による磁界、放電、交流→高校へ [化学分野] 物質の変化、化学変化の仕組みと原子・分子 高校→原子の構造・電気分解とイオン [生物分野] 動物の行動と体、生命を支えるための仕組み、動物の仲間 [地学分野] 天気の変化、日本の天気	7	中２教科書 4 中３教科書 1 英会話 2
中3	4	中３教科書 2.0 国語Ⅰ 2.0 （含:古文・漢文・文語文法）	4	高校教科書 日本史Ｂ 2 （国風文化まで） 高校教科書 政治経済 2	4	中３教科書（残り） 高数Ⅰ教科書 ・個数の処理 ・確率 高数Ａ教科書 ・数と式	4	[物理分野] 運動と力、エネルギー 仕事率→高校へ 高校→加速度について、原子と原子核 [化学分野] 水溶液と電流、酸・アルカリ・塩 中和反応関係と電池→高校 高校→物質の構成と化学結合 [生物分野] 生物と細胞、生物の増え方と遺伝 生物の進化、生物界の繋がり→高校 [地学分野] 活動する大地、削られる大地、変わりゆく大地、地球と人間	7	中３教科書 3 高英語Ⅰ 1 ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ 2 O.C.A 1
高1	5	国語Ⅰ（現代文）2 古典Ⅰ3	4	日本史Ｂ 2 （現代まで） 政治経済 2	5	※分数計算、図形の復習と数について整理 数Ⅰ（二次関数） 数Ｂ（複素数と方程式の解） 数Ⅰ（三角比） 数Ａ（式と証明） 数Ⅱ（図形と方程式） 数Ⅱ（指数関数と対数関数）	4	[化学ⅠＢ] ・物質の構成と化学結合 ・物質の状態 ・物質の変化 中学で学習した概念の発展と定着	7	英語Ⅰ 3 英語Ⅱ 1 ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ 2 O.C.A 1
高2 文系	6	現代文3 古典Ⅱ3	7	世界史（必修）4 日本史Ｂ ⎫ 3 地理Ｂ ⎭ （必修選択）	5	数Ⅱ（三角関数） 数Ⅱ（微分と積分） 数Ｂ（平面ベクトル） 数Ｂ（空間ベクトル） 数Ａ（数列） 数Ｂ（確率分布） ・確率の計算まで	3	[生物ⅠＢ][地学ⅠＢ]より選択 ・生体の構成とエネルギー （細胞の増殖、生殖と発生→中学へ） ・生命の連続性 ・地球の構成と内部のエネルギー ・地球の歴史 ・大気と海洋	6 〜 10	英語Ⅱ 3 ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ 2 構文語法演習 1 O.C.B ② 英語速読演習 ②
高2 理系	4	国語Ⅱ4	4	世界史Ｂ	5	数Ⅱ（三角関数） 数Ⅱ（微分と積分） 数Ｂ（平面ベクトル） 数Ｂ（空間ベクトル） 数Ａ（数列） 数Ｂ（複素平面） 数Ｂ（確率分布） ・確率の計算まで	6	[生物ⅠＢ][地学ⅠＢ][物理ⅠＢ]より２科目選択 生物・地学は文系と同じ ・運動とエネルギー ・波動	6	英語Ⅱ 3 ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ 2 構文語法演習 1
高3 文系	3 〜 9	現代文3 古典講読④ 国語表現②	5	倫理 2 日本史Ｂ ⎫ 世界史Ｂ ⎬ ② 地理Ｂ ⎭ 政治経済 （１科目選択）	4	数ⅠⅡＡＢの範囲の問題演習	0 〜 2	[生物ⅠＢ][地学ⅠＢ]より選択	6 〜 10	ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ 4 ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ 2 英語速読演習 ② O.C.C ②
高3 理系	3 〜 5	現代文3 古典Ⅱ②	2	倫理 2	8	数Ⅲ 数c 問題演習	4 〜 8	[生物Ⅱ][地学Ⅱ][物理ⅠＢ・Ⅱ]より１科目または２科目選択 [物理ⅠＢ] ・電気と原子 [物理Ⅱ] ・運動とエネルギー ・電流と磁界 ・原子と原子核	6 〜 8	ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ 4 ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ 2 総合英語演習 ②
高3 選択		現代文② 古典Ⅱ④	3	日本史Ｂ ⎫ 世界史Ｂ ⎬ ③ 地理Ｂ ⎭ 政治経済 （理系で必要な者で１科目選択）						

※ 注 (1) ○印は選択科目の単位数を表す。
(2) 科目名の後の数字は単位数を表す。
(3) 下線が引かれた箇所は、現行の進度とは異なる部分を示す。ただし地歴公民科と理科は全面的に改編してあるので下線は省略した。
(4) 地歴公民科の教育課程については別案も検討された。（いわゆるⅡ型といわれるもの）

中高一貫保健体育科年間指導計画

	学期	1学期				2学期				3学期			
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	行事 中学	修学旅行	部活動発足	郡球技大会	キャンプ・登山			運春祭	新人戦中信大会				
	行事 高校		クラスマッチ	中信大会	県大会			球技クラスマッチ					
	行事		中信総体	東総体	全校登山			強歩大会				スキー教室	
	週	1 2 3	4 5 6	7 8 9	10 11 12 13	14	15 16 17	18 19 20	21 22 23 24	25 26 27	28 29 30 31	32 33 34 35	
仁科台中学校	1学年 実施種目	オリエンテーション 集団行動 体操	陸上 (1)中リレー ハードル 走り高跳び		水泳		器械運動	バレーボール	剣道		バスケットボール		
	1学年 時	8	15		10		8	8	15		10		74
	1学年 保	心身の機能の発達と心の健康 16											16
	2学年 実施種目	集団行動 体操	陸上 (1)中リレー 走り幅跳び 中長距離走		水泳		サッカー バレーボール		剣道		バスケットボール バドミントン		
	2学年 時	6	15		10		16		15		12		74
	2学年 保	健康と環境 8						障害の防止 8					16
	3学年 実施種目	集団行動 体操	陸上 (1)中リレー 種目選択		選択 水泳 器械運動		球技選択 バドミントン・サッカー バレーボール・ソフトテニス		柔道		球技選択 バスケットボール 卓球 室内ホッケー	トレーニングの理論と実践	
	3学年 時	5	12		8		12		18		10	4	74
	3学年 保	健康な生活と疾病の予防 16											16
	選択体育 通年	・環境問題についてテーマを設定し、調べ、レポートにまとめ、発表する。					ターゲットバードゴルフ、インディアカ				ニュースポーツを考え、レポートにまとめ発表する。		35
	選択体育 半期	・スポーツ傷害、マッサージ法、種目別トレーニング法、テーピング、栄養学等についてテーマを設定し、調べ、レポートにまとめ発表する。											各17
大町高等学校	1学年普通科 実施種目	体操	バレーボール		水泳 ヨトレーニング 陸上		球技選択 サッカー ソフトテニス		柔道		球技選択 バスケットボール 卓球		
	1学年普通科 時	10	16		15		24		20		20		105
	1学年普通科 保	現代社会と健康			環境と健康		生涯を通じる健康		集団の健康				35
	1学年理数科 実施種目	体操	バレーボール		水泳 ヨトレーニング 登陸上		球技選択 サッカー ソフトテニス		柔道		球技選択 バスケットボール 卓球		
	1学年理数科 時	8	10		10		16		13		13		70
	1学年理数科 保	現代社会と健康			環境と健康		生涯を通じる健康		集団の健康				35
	2学年普通科 実施種目	体操	球技選択 バレーボール ソフトボール ソフトテニス		水泳 ヨトレーニング 登陸上		球技選択 テニス サッカー バドミントン		武道選択 柔道 剣道		球技選択 バスケットボール 卓球 室内ホッケー		
	2学年普通科 時	15	30		15		30		20		30		140
	2学年理数科 実施種目	体操	球技選択 バレーボール ソフトボール ソフトテニス		水泳 ヨトレーニング 登陸上		球技選択 テニス サッカー バドミントン		武道選択 柔道 剣道		球技選択 バスケットボール 卓球 室内ホッケー		
	2学年理数科 時	10	16		15		24		20		20		105
	3学年普通科 実施種目	体操	球技選択 バレーボール ソフトボール ソフトテニス バドミントン		水泳 ヨトレーニング 登陸上		球技選択 サッカー テニス 卓球 バスケットボール		武道選択 柔道 剣道		ニュースポーツ		
	3学年普通科 時	10	16		15		24		20		20		105
	3学年普通科 選択	ゴルフ	テニス		水上スポーツ		ニュースポーツ						70
	3学年理数科 実施種目	体操	球技選択 バレーボール ソフトボール ソフトテニス バドミントン		水泳 ヨトレーニング 登陸上		球技選択 サッカー テニス 卓球 バスケットボール		武道選択 柔道 剣道		ニュースポーツ		
	3学年理数科 時	10	16		15		24		20		20		105

※6年間男女共修

資料No-1-2

中高一貫カリキュラム（進度表）　仁科台中学校・大町高等学校

美術

	時数	内容
中1	45h (70h)	A【絵・彫刻の基礎Ⅰ】 ☆「友達の顔」 【デザイン・工芸】 ☆色彩基礎 ☆多様な表現技法、モダンテクニック B【美術館に行こうⅠ】 ☆インターネットの利用
中2	35h (70h)	A【絵・彫刻の基礎】 ☆地域を見つめ直そう ☆自然との対話 【デザイン・工芸】 ☆学校生活を演出しよう ☆環境デザイン B【美術館に行こうⅡ】 ☆身近な美術館に行ってみる
中3 選択	35h (35h)	A【絵・彫刻表現の応用】 ☆版画の魅力 【デザイン・工芸】 ☆映像表現にチャレンジ B【日本文化と美術】 ☆墨と筆で表す自然
		地域文化コース
選択		パソコンコース
高1 選択	70h	A【絵・彫刻表現の応用】 ☆色を聞く ☆音を見る 【デザイン・工芸】 ☆情報をデザインする B【多様な世界の美術】 ☆アジアの美術 ☆世界の美術
高2 選択	70h	A【絵・彫刻表現の発展】 ☆心の中の世界 【デザイン・工芸】 ☆環境に向ける眼差し B【現代の美術Ⅰ】 ☆美術の歴史 ☆日本の歴史 ☆世界の歴史
高3 選択	70h	A【卒業記念制作】 ☆自分の得意分野で自分を表現する B【現代の美術Ⅱ】 ☆美術と人生の関わり

家庭

	時数	内容
中1	35h (35h)	【家庭生活】 ☆家族・家庭 ☆家族の仕事 ☆家庭生活と経済
中2	35h (35h)	【食物】 ☆中学生の健康と栄養 ☆食品群別摂取量の目安 ☆調理
中3 選択		【被服】 ☆ハーフパンツの制作 【保育】 ☆幼児の心身の発達 ☆幼児の生活 ☆子供が育つ環境
選択		【食生活と健康】 ☆食文化 ☆栄養素と栄養所要量 ☆献立と料理 【家庭経営】 ☆家族の人間関係と法律 ☆生活設計と生活時間 ☆高齢者の生活　☆暮らしの経済 ☆消費生活と消費者
高1 選択	70h	【住居】 ☆住生活の設計　☆快適な居住性 ☆住生活の現状と住宅政策 【衣生活】 ☆衣服の機能☆衣服材料と衣服整理 ☆衣服制作（上着の制作）
高2	70h	【保育】 ☆妊娠のｿﾒｲﾒﾝﾄと家族計画 ☆生命誕生　☆乳幼児の保育 ☆子供の人間形成と生活環境
高3 選択	70h	A【食物】（70h） B【保育】（70h）

※ 注　(1)保健体育の教育課程表は紙面の構成上、教科から提出されたものをそのまま掲載した。
(2)時数欄の値は単位時間数である。（ ）内の値は現行の単位時間数である。
(3)美術の内容欄にある A、B の意味は「A＝表現領域」、「B＝鑑賞領域」を示す。

資料No.-2

都市部における中高一貫教育の接続に関する案一覧

中高一貫教育拡大研究委員会資料

型	No.	中学校 学校名	中学校 設置者	中学校 人数	中学校 小学校からの接続	中学校 選抜方法	中学校 クラス編成	中学校 教育課程	高等学校 学校名	高等学校 設置者	高等学校 一貫入学者数/入学者総数	高等学校 クラス編成	高等学校 選抜方法	高等学校 教育課程	特別活動	利点及び困難点
連携型	1	仁科台第一	大町市	在籍者数	就学指定	選抜しない	従来の編成方法による	中学校学習指導要領による	大町	長野県	40／120	単独クラス	定員超過の場合簡易な選抜	高等学校学習指導要領による	中高それぞれで実施	◎設置が容易 ◎大町市以外の生徒は中高一貫教育の機会が得られない ◎教育課程の特例・特別活動上のメリットを生かせない ◎理数科との兼ね合いが困難
	2	仁科台第一白馬	大町市大町市白馬村	同上	同上	同上	同上	同上	大町	長野県	60／120	混合クラス	同上	同上	同上	◎設置が容易 ◎複数の中学との連携が困難 ◎推薦入学との差が明確でない ◎教育課程上の特例・特別活動上のメリットが生かせない
	3	松本市内A中学	松本市	同上	同上	同上	同上	同上	松本市内A高校	長野県	40／320	単独クラス	同上	同上	同上	◎設置が容易 ◎中学の選定が困難 ◎指定中学以外の生徒が中高一貫教育の機会を得られない ◎教育課程上の特例・特別活動上のメリットが生かせない
併設型	1	仁科台	組合	80	中信地区から公募	定員オーバーの場合に限り抽選又は面接	単独2クラス	特別カリキュラム	大町	組合	80／120	単独2クラス	定員超過の場合面接・作文	特別カリキュラム	一部の行事等を合同で実施	◎組合立への移管が困難 ◎広範囲の生徒が中高一貫教育の機会を得られる ◎教育課程上の特例・特別活動上のメリットが生かせる
	2	中等部（大町北）	長野県	80	全県から公募	同上	同上	同上	大町	長野県	80／160	同上	同上	同上	同上	◎12通学区の高等学校の統廃合の議論が必要 ◎中等部の設置が容易 ◎教育課程上の特例・特別活動上のメリットが生かせる
	3	長野A中学	長野市	80	北信地区から公募	同上	同上	同上	長野市内B高校	長野市	80／200	同上	同上	同上	同上	◎設置が容易 ◎中学の選定が困難 ◎阜月高校近隣の中学に設置した場合、過学が困難 ◎教育課程上の特例・特別活動上のメリットが生かせる
	4	松本B中学	組合	80	中信地区から公募	同上	同上	同上	松本市内C高校	組合	80／320	同上	同上	同上	同上	◎中学の選定、組合立への移管が困難 ◎広い範囲の生徒が中高一貫教育の機会を得られる ◎教育課程上の特例・特別活動上のメリットが生かせる
新設型	1	大町中・高（仮称）	大町市又は長野県	80	全県から公募	定員オーバーの場合に限り簡易な選抜	2クラス	特別カリキュラム	大町中・高（仮称）	長野県又は大町市	80／80	2クラス	選抜試験なし（そのまま進級）	特別カリキュラム	大半の行事、クラブ活動を合同で実施	◎設置が困難（財政上） ◎募集が困難 ◎12通学区の高等学校の統廃合の議論が必要 ◎教育課程上の特例・特別活動上のメリットがいかせる
	2	長野中・高（仮称）	長野市又は長野県	80	同上	同上	同上	同上	長野中・高（仮称）	長野県又は長野市	80／80	同上	同上	同上	同上	◎設置が困難（財政上） ◎募集が容易 ◎多様な希望進路、幅広い学力への対応が困難 ◎教育課程上の特例・特別活動上のメリットがいかせる
	3	松本中・高（仮称）	松本市又は長野県	80	同上	同上	同上	同上	松本中・高（仮称）	長野県又は松本市	80／80	同上	同上	同上	同上	同上
	4	信州総合中・高（仮称）	塩尻市又は長野県	80	同上	同上	同上	同上	信州総合中・高（仮称）	長野県又は塩尻市	160／240	希望進路によりコース別編成	同上	同上	同上	◎中学の設置が困難 ◎既存の高校に設置すれば財政上は容易 ◎多様な希望進路に対応できる ◎教育課程上の特例・特別活動上のメリットが生かせる

資料No.-3

仁科台中の生徒を指導して

大町高校体育科　山岸哲也

この度、中高一貫教育研究事業の一つとして中学校との交換授業を体験させていただきました。体育科では、全員が授業を行いましたので、それぞれの先生に感想を聞いてみました。

1年生のソフトバレーの授業を行った小林武郎先生は、『しつけが行き届いており話を聞く態度もよく、とても授業がしやすかった。』3年生の保健の授業を行った倉坪先生は、『高校生にはない反応がみられ、雰囲気もよく楽しく授業ができた。』3年生のクラスマッチの練習でサッカーの種目に参加した小林敏彦先生は、『いろいろな生徒がいて気を使うところもあったが、全体的な生徒の印象はかわいらしく純粋さを感じた。』私は2年生のクラスマッチ練習でバレーボールの種目に参加しましたが、今回は1回のみの授業で個々の生徒の特徴がわからず、授業展開の難しさを感じました。しかし今回、交換授業をさせていただき、中学生の様子が少しでも見れたことは大変勉強になりました。今度は、生徒の感想を聞かせていただければありがたいです。

大町高校国語科　小宮山健司

芸術教科は、すべからく情操の陶冶を標榜するものである。したがって、生徒の「心」の動きが大きければ大きいほどその授業は成功したといえる。はたして今回の試みはどうだったのか。仁中の生徒が急かされてわずか三分ほどで書いた授業の感想を、おそるおそる見た。よかった、誰も失望したなどとは書いていない……もちろんそこには中学生なりにこちらの感情を慮るいじらしささえ感じられたのだけれど。高校の見も知らぬ教室へ足を踏み入れ、得体の知れぬ先生に教わる緊張感たるや、これ以上の心の揺さぶりはあるだろうか。ところで今回、中学には何と金の卵が多いことかと思った。このまま努力を続けたら、斯界の寵児になるのでは、と思わせる子がいっぱいだ。しかしピアノなどと違って高校になると書道から離れてしまう子が非常に多いのを常々残念に思っている。今回の授業が、いくらかでも書道のイメージアップに繋るものであったなら幸いである。

音楽会

音楽科　平林ミチル

今年も感動的でした。私は今年で4年めですが最初驚いたのは、生徒も学

中略

更に大町高の皆さんの歌声を聴き「どうしたらあんな合唱できるんだろう」とつぶやく子もいました。「いい耳」達が育ってきたのですね。

後略

蓮華祭に参加しての感想

大町高校　三年五組

大町高校合唱コンクール最優秀賞を獲得したクラスということで、三年五組が蓮華祭の音楽会で歌いました。僕にとってはというより、クラスの約三分の一が仁中の卒業生なので、三年ぶりの体育館のステージで歌うのは、なつかしいことであり、楽しみであったと僕は思ったんですが他の人はどうだったんでしょう。

さて、音楽会ですが、三学年のクラスの歌声を聞くことができました。どのクラスも声がでていたし、きれいに聞こえてきて、どこが金賞をとっても（今も金銀銅賞ですよね）いいんじゃないかと思うほどうまかった。素晴しかった。聞けて良かった。

ところで、僕達の歌はどうだったでしょうか。町高の合唱コンクールが終わって二日後だったんですが、最優秀賞の歌声をみなさんに聞かせることができたのではないかと思っています。ただステージ上で見た通り男の方が圧倒的に多いので少し、汚い合唱に聞こえてしまったかもしれませんが、「おおーこれが高校の合唱かあ」と少し、ビックリめの感想をもってもらったんじゃないかなと思います。この音楽会では、僕達の合唱は、賞とかつかないので気楽に、楽しく歌えることができました。

まあ、とにかく、三学年の合唱は素晴らしかったし全校の「大地讃頌」も、大地って感じでズシッと良かったし、そんな、卒業した中学の音楽会に呼んでいただいて、歌うことができて本当に良かったです。

蓮華祭も盛大に盛り上がり、感動のフィナーレで幕を閉じたんじゃないかと思います。

蓮華祭に参加したのは音楽会だけだったけど、いち卒業生として参加できて良かったです。

川上　俊光

資料No.-4-1

平成１１年９月７日

中高一貫教育部活動交流

中高一貫教育研究委員会

保健体育科部会

１、交流の基本

①交流の機会は週２回とする。

・火曜日　４：００～別項記載の通り

・土曜日　１：３０～３：３０

②合同練習終了時間は中学校の終了時間に合わせる。

（高校はその後練習を継続しても良い）中学校の施設は7:00まで高校生に解放する。

③施設は中高の施設・大町市の施設を有効に活用する。

④指導は中高の顧問で一緒に行う。

⑤練習内容は両顧問て打ち合わせを行い、中学生の身体に適度の負担とならぬよう配慮する。

⑥自主的練習が出来るよう高校生がリードすることを基本とする。

⑦部活動によっては成果を発表する場を設定する。

⑧練習内容によっては顧問同士の打ち合わせて大町市の施設を利用することもある。その場合、中学生は臨時の自転車を許可する。

２、交流場所の具体

【施設】

○バスケットボール部	大町高校（小体育館女子、体育館半面男子）
○バレーボール部	仁科台中学校（体育館半面女子）
	大町高校（体育館半面男子）
○サッカー部	仁科台中学校校庭
○野球部	大町高校投庭
○テニス部	大町高校テニスコート
○陸上部	大町運動公園陸上競技場(借用願いは中学側で提出)
○卓球部	仁科台中学校体育館半面
○吹奏楽部	仁科台中学校第１音楽室
○合唱部	仁科台中学校第２音楽室
※その他の部活	それぞれの活動場所で

３、指導上配慮すること

①球技でボール等の規格が違う場合は、基本的に中学校の規格に合わせる。

②野球は硬式球を使い、中学生に無理のないように体験交流を中心に行う。

④吹奏楽は大きな楽器の運搬を出来るだけ行わないで出来るよう工夫する。

⑤自転車を利用する場合の置き場は、高校は体育館北、中学はグラウンド横とする。

⑥事故怪我等か生した時は、双方の養護教諭がそれぞれ対応する。

4、その他

・中学は平日の部活動においては、スポーツドリンクなどは禁止となっているので、高校生も交流練習においては、水のみとする。

・陸上部の練習は中学校は自転車を許可する。

・高校生には親切に中学生を指導し、交流を行うことを徹底したい。年長者として威圧的関わりを行わないようにする。

・それぞれ顧問の先生、すれ違う先生方への挨拶を大事にさせたい。
それと同時に生徒同士の挨拶も大事にする。

・使用する施設以外は勝手に立ち入らない。

・高校には自動販売機が設置されているが、使用しない。

・行き帰りの交通には十分注意する（必ず横断歩道を渡る）

・生徒指導上マイナス面での交流がなされないよう顧問は注意して指導に当たる。

・後片付け・清掃は一緒に行い、高校生がその後も練習する場合は高校生が行う。

5、具体的練習日　　中学校部活終了時刻

１０月	５日	（火）	第１回交流	５：４５
	１２日	（火）	第２回交流	５：００
	１９日	（火）	文化祭片付などが残るため不可	〃
	２６日	（火）	第３回交流	〃
	３０日	（土）	第４回交流（高校新人戦後期）	〃
１１月	２日	（火）	高校テスト前	〃
	６日	（土）	高校テスト前	〃
	９日	（火）	高校テスト前	〃
	１６日	（火）	第５回交流	〃
	２０日	（土）	第６回交流（高校新人戦後期）	〃
	３０日	（火）	第７回交流	４：４５

※今年度の交流は１１月までとする。

※高校新人戦後期に参加する部活か出るが、高校生がいない場合でも指定された交流場所（施設）を使用する。

※中学校練習終了時間は、上記のとおりです。短い練習時間ですが交流の趣旨を考慮して練習内容を決めて活動してください。
なお、中学校の部活によっては新人戦２週間前から３０分延長の部活があるの